

清潔で美しくすこやかな習慣

102-12, 102-15, 102-43, 103-1, 103-2, 103-3, 404-2

快適で使いやすい製品やサービス、情報提供を通じて、人々の、より清潔で美しく、すこやかな習慣に貢献します。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

地球温暖化	・紫外線増加による皮膚ダメージ ・熱中症の増加
衛生環境変化	・感染症の増加 ・公衆衛生や衛生習慣の格差拡大
女性活躍の阻害	・身体の成長や発達、加齢やライフスタイルの変化に伴う心身の不調
多様性への対応不足	・製品、サービスのベネフィットを公正に享受できない ・アクセシビリティが不十分

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、2021年に入っても収束が見えない中、改めて清潔の重要性が再認識されています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

「地球温暖化」「衛生環境変化」「女性活躍の阻害」「多様性への対応」などの社会課題への取り組みや人々のニーズの変化に対応できなければ、製品やサービスを通じて提供する価値が生活者や社会の共感を得られなくなります。その結果、花王の企業価値やブランド価値の低下を招き、収益性やマーケット競争力を低下させる可能性があります。

花王が提供する価値

地球温暖化	・未就学児、児童への紫外線ケア啓発 ・児童、生徒への環境授業教材の提供
衛生環境変化	・未就学児、児童への手洗い、おそうじの啓発 ・社会活動における手洗い、手指消毒での衛生サポート
女性活躍	・児童への初経教育
多様性	・障がいを持った未就学児、児童への手洗い啓発教材の提供

貢献するSDGs



方針

人々の生活スタイルや価値観が変化する中、安心して暮らせ、人生が輝くお手伝いができる清潔・衛生商品を提供するとともに、日々の衛生習慣・行動や心身のお手入れを無理なく続けることのできる啓発活動を推進。真にすこやかな暮らしの実現に貢献していきます。また、今後は手洗いやマスクの習慣化が不十分な欧米諸国をはじめ、アジア地域にもより積極的に衛生習慣の定着が進むように活動していきます。

教育と浸透

花王では2009年から2019年にかけて、全社員のESG活動への参画を促す一環として、小学校低学年を対象とした「手洗い講座」をはじめとする出張授業のサポートを行ってきました。

しかし、コロナ禍において小学校に社員が出張して授業をすることにより、感染を広げてしまう懸念がある一方で、コロナ禍だからこそ、より多くの子どもたちに正しい衛生行動を身につけてもらうことの重要性が高まってきました。そこで、2020年からは、未就学児に向けてのリモート授業や、教材提供により、小学校で先生が授業の一環として実施できるプログラムを開発してきました。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

花王は、社会の変化に対応したプログラムの提供を通じて子どもたちの“生きる力”を育み、“課題を解決する力”を養うための次世代育成活動に取り組んでいます。プログラム開発にあたっては、教育の現場で活用していただけるよう、行政・自治体・学校などと連携して内容の充実を図っています。

清潔で美しくすこやかな習慣

体制

Kirei Lifestyle Planの19のアクションのうち、「QOLの向上」「清潔で美しくすこやかな習慣」「ユニバーサルプロダクト デザイン」「サステナブルなライフスタイルの推進」「パーパスドリブンなブランド」は、共通の体制のもと推進されています。

取締役会の監督のもと、これらに関する審議を年6回開催するESGコミッティで行なっています。このコミッティの委員長は、代表取締役 社長執行役員が務め、ESG、事業、R&D、品質保証、SCM、販売などの責任者が委員を務め、事業との一体運営を行なっています。同コミッティはその活動状況を年1回以上取締役会に報告し、取締役会の監督を受けています。



P16

Kirei Lifestyle Plan -花王のESG 戦略-> ESGガバナンス体制

中長期目標と実績

2030年長期目標

●花王の製品やサービスを使い、清潔で美しくすこやかな習慣を身につけるために実施した啓発活動で到達した累積人数

2030年目標:1億人

日本では、学校の先生が自ら実施できる教材の提供を中心に、リモート形式を含む出張授業もあわせてより多くの教育機関へアプローチし、未就学児や児童の衛生習慣の定着をめざしています。また、アジア地域や欧米においても、日本と同様に、正しい情報発信や衛生啓発活動を広げていきます。

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

手洗い習慣がある日本においても、子どもの頃から衛生行動を学び、習慣化することによりハンドソープや消毒液、除菌関連製品の使用率や使用頻度の拡大が見込まれます。また、こういった日本の衛生習慣を海外に広めていくことによりアジアにおいても衛生習慣が高まることで、衛生関連製品のマーケットの飛躍的な拡大に貢献します。

社会的インパクト

清潔で美しくすこやかな習慣が定着することにより、生活の質の向上や衛生状況の改善、感染症リスクの軽減につながることが期待できます。

清潔で美しくすこやかな習慣 102-43

具体的な取り組み

清潔で美しくすこやかな習慣づくりのための教育プログラム

教材提供による次世代育成

花王は、“自分の衛生状態を保つ”ことは、“社会(身近な人たち)の衛生状態を保つ”ことにつながるという考えのもと、社会の変化に対応したプログラムの提供を通じて子どもたちの“生きる力”を育み、“課題を解決する力”を養うための次世代育成活動に取り組んでいます。



花王次世代育成

www.kao.com/jp/education/next-generation/

教材提供

新・衛生習慣化プログラム

「みんなで手あらい 小学校1・2年生向け」



2021年は前年に引き続き、小学校低学年に向けて先生が自ら授業を行なっていた教材を無償で提供

しました。コロナ禍において、小学校低学年の段階で手あらいやマスクをする意味を楽しく学び、衛生習慣を身につけてほしいという思いから、新・衛生習慣化プログラム「みんなで手あらい」を開発。全国約2万校の小学校に案内し、6千校を超える学校で活用いただいています。

新・衛生習慣化プログラム

「みんなで手あらい ろう学校向け」



聴覚に障がいがある子どもたちにも、楽しみながら衛生習慣を身につけてもらいたいとの思いから、「みんなで手あらい ろう学校向け」を開発、2021年9月より提供しています。2021年12月時点で、全国のろう学校のうち約60%で活用いただいています。

本プログラム開発にあたっては、聴覚障がいを持つ花王グループ社員を中心とした社内コミュニティ「KAKEHASHI(かけはし)」*のメンバーが携わっています。よりわかりやすく興味を引く教材をめざし、ろう学校のご協力のもと、子どもたちに検証授業を行ない、

先生のご意見を伺うなどの確認作業を繰り返してきました。そして、手をすみずみまであらうための「6つの手あらいポーズ」の説明に手話の「指文字」を採用するなど工夫を重ね、完成に至りました。

※「KAKEHASHI」は、聴覚障がいを持つ社員を中心に、2020年12月に結成した社内コミュニティです。「きこえないときこえる人、将来的にはすべての人の悩みを共有しながら、協調して未来への架け橋となるように」という思いのもと、さまざまな社会的課題の解決に向けて社内外で取り組んでいます。



花王「KAKEHASHI」メンバーによる、ろう学校での検証授業

米国でも手洗い啓発を展開



花王 USA は、2021年3月より、米国の小学校児童を対象に、衛生習慣の大切さを教えるための新しいプログラム「Clean Routine for Healthy Hands」を、「MyKirei by KAO」ブランドで展開しています。このプログラムは、

清潔で美しくすこやかな習慣 102-43

日本で展開している新・衛生習慣化プログラムを応用して開発したもので、手洗いを「毎日やらなければいけない作業」ではなく「楽しいこと」としてもらえようような内容となっており、先生たちの児童への手洗い指導をサポートしています。2021年12月時点で、10校に教材を提供しており、今後、展開校を拡大していく予定です。



あわあわ手あらいのうた

www.kao.co.jp/bioreu/family/hand/song/

花王の衛生情報

www.kao.com/jp/new-hygiene/

新・衛生習慣化プログラム「みのまわりをきれいに」



手洗いを習慣化した次のステップとして、身の回りを「衛生的に保つこと」の大切さを理解する、新・衛生習慣化プログラム「みのまわりをきれいに」を開発しまし

た。「みんなで手あらい 小学校1・2年生向け」を実施した小学校に限定して、2021年9月より提供しています。机拭きの実習や家庭での実践を通して、「できるところから、自分できれいにする」習慣を楽しく身につけることができる体験型のプログラムです。

海洋プラスチックごみ問題について考えるプログラムを和歌山大学教育学部附属小学校と共同で開発し、和歌山市内の公立小学校に提供

花王は、2020年10月に和歌山市とSDGs推進に関する連携協定を締結。和歌山市のSDGsの推進と地域社会の持続的な発展に向けて、花王の幅広い事業領域とそれを支える研究技術による貢献をめざしています。その一環として、未来に向けた人材の育成をテーマに、海洋プラスチックごみ問題について考え、解決に取り組むプログラムを、和歌山大学教育学部附属小学校と共同で展開。そこで得た知見をもとに、プログラムを作成しました。2021年には、和歌山市内の公立小学校で実施。これらの活動をもとに2022年度には全国への教材提供を開始いたします。プラスチックゴミを減らす工夫やリサイクルについて学びながら、自ら考え、課題を発見し、問題解決するための力が身につく授業をめざします。



和歌山大学教育学部附属小学校での花王の社員によるオンライン授業の様子

→ Fundamental Section > 社会貢献活動 >
P354 花王・ベトナム衛生プログラム

→ Fundamental Section > 社会貢献活動 >
P355 月経教育・月経衛生環境向上への貢献